

クボタアグリロボットラクタ を導入して

株式会社紅梅夢ファーム

代表取締役 佐藤 良一

<講演内容>

1. 会社概要説明
2. 会社設立経緯とアグリロボットラクタ購入のきっかけ
3. アグリロボットラクタを使用した感想
4. スマート農業への今後の取組について

1. 会社概要説明

(1) 組織名 : (株)紅梅夢ファーム
代表者 : 佐藤 良一(64歳)

株式
会社 **紅梅夢ファーム**

(2) 所在地 : 福島県南相馬市小高区

(3) 設立 : 2017年1月 ※経緯は後ほど

(4) 従業員 : 役員・7名、正社員・2名、臨時・3名(毎月)、20名(随時)

(5) 経営規模 : 水稻:25 ha 大豆:13 ha 玉葱:2.4ha 菜種:5.4ha
菜種油を活用した6次化製品の販売 等

1. 会社概要説明

- (6) 保有機 : トラクタ4台、コンバイン2台、田植機1台
KSAS(営農支援システム)、直進キープ機能付田植機を活用
- (7) 業務内容 : 米・野菜・大豆・菜種の生産
被災地における農作業受託作業
菜種油を活用した6次化産品「浦里の雫」の販売 等



2. 会社設立経緯とアグリロボトラクタ購入のきっかけ

(1) 会社設立経緯

- ① 2011年 : 東日本大震災
- ② 2012年 : 農業復興組合を立ち上げし、草刈や瓦礫拾い等を開始
 水稻の試験栽培を40aから開始
- ③ 2013年: 水稻と大豆の実証栽培、④ 2014年: 菜の花の栽培を開始
- ⑤ 2016年7月: 強制避難解除
- ⑥ 2017年1月: 農業復興を目指し、志しある7つの営農組織で法人設立

【課題】

- ・ 離散した住民・農業者が地域に戻らず、
 元々3200戸ほどの農業者が1%ほどになった
- ・ 戻った農業者も離農・委託を希望しているため、
 作付面積を拡大し続けなければならない
- ・ 人材確保と作業効率向上が課題



2. 会社設立経緯とアグリロボトラクタ購入のきっかけ

(2) アグリロボトラクタ購入のきっかけ

- 「小高」の農業再興に向かって邁進するべく、
今後は作付面積を現状50ha→500haに拡大する予定
(離農・受託により面積は年々増加)
- 地域的な課題もあり、雇用確保が難しく、限られた人員で
更なる作業効率向上を図る必要がある
- 農業ICT・ロボット農機の活用により、課題を解決するべく
アグリロボトラクタを購入。興味も非常にあった。

3. アグリロボトラクタを使用した感想

(1) 活用状況

- ① 耕起、代掻作業で活躍
- ② 無人トラクタ1台による単独作業と直進オートステアリングによる作業
- ③ 通常トラクタとしても活用
- ④ アグリロボトラクタの活用は、学校を卒業して間もない新入社員に任せている



3. アグリロボトラクタを使用した感想

(3) 使用して感じたこと

- ① 新入社員の戦力化・育成に役立つ
- ② 導入当初は、耕うんによる土煙に安全センサが反応したこと、安全センサに水が付着したことで、作業が中断することがあった
→ 都度メーカーが来て対応し、現状では改善されている
- ③ 取付できる作業機が限られており、今後は対象機種拡大を希望



4. スマート農業への今後の取組について

法人として農業経営を行う上で、効率化・コスト削減等シビアに考えており、それらに貢献すると考えるので今後も積極的に活用していく。

地域に若い後継者が帰ってくるような、魅力的な農業法人となり、小高の農業復興を目指す。



御清聴ありがとうございました